

事例3 自分なりに考えたり工夫したりして遊ぶ中で、友達に自分の思いを伝えたり友達の考えを聞いたりよさにふれたりしながら遊びを楽しんだ事例<年長5歳児>

～“いいこと考えた!パワフルパワーで一緒に遊ぼう”～ウォータースライダーの遊びから～ (方法②③)

(子どもの様子)

砂場に年中の時に作った山が残っており、一人一人がその山を基地として、自分のやりたい遊びに取り組もうとする姿が見られる。

(保育者の願い)

- ・水、砂、泥の感触を味わいながら発散して遊んでほしい。
- ・遊びの中では、自分なりに考えたり工夫したりしながら遊んでほしい。
- ・友達とのかかわりの中で、自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら遊んでほしい。

子どもの姿

☆環境の構成と援助

◆保育者の思い・読み取り

6月5日【ウォータースライダーのコースを作ろう!～

F児の思いが伝わったよ

<遊びの様子>

F児は、山の周りを掘って道を作っている。

E児:「みんなに道を作ること聞いた?」

F児:「どうせだめって言うもん」

T:「みんなに伝えてみないとわからないよ。聞いてみようか。みんなちょっと集まって」

*みんなはF児の周りに集まる。

F児:「周り(山の)を掘っていい?」

全員:「いいよ」

B児:「私たちもしてるよ(掘って)」

F児は、にっこりと笑う。

*しばらくして砂場の枠に山があたり、道を掘ることができないことに数人の子どもたちが気付く。

T:「どうする?みんなで相談してみる?」

「さくらさん集まって」

*子どもたちが集まってくる

B児:「山を少し小さくするか、

山の上に道を掘るか」

E児:「山の上にとすると(道を)

山が崩れるよ。山をもう

少しこっち(砂場の中)

に作ればよかったね」

T:「そうだね。どうすればいいかな?」

全員:「山を削ろう」

*山を砂場の枠の中に入るようにみんなで山を削ることになる。

全員:「一周、つながったよ。歩いてみよう」

歩いてみよう」

歩いてみよう」

*みんなで水を流して歩く。



◆F児の「どうせだめって言うもん」という言葉に、友達に自分の気持ちを伝え受け入れてもらうことの難しさを感じているのではないか。

◆この活動を通して、友達に気持ちを伝え、受け入れてもらえる嬉しさを経験してほしい。

☆F児の気持ちをクラス全体に伝えられるように友達を呼び、話す機会を設ける。

◆F児は、自分の言葉でみんなに気持ちを伝え、受け入れてもらえたことが安心感となり、自分の遊びを楽しむことにつながったと思われる。

☆砂場の枠に山が当たっていることをどうすればよいのかをみんなで考えて解決できればと思い話し合いの場を設定する。

☆みんなでコースを完成させたという満足感につながるように声のかけ方を工夫したり、一人一人の思いや考えを共有したりできるように支える。

◆大切な山を削ることになったが、自分たちで考えたことを実践し、みんなでウォータースライダーのコースを作り上げたことが、困難を乗り越える経験につながった。友達の考えに触れることで遊びが広がっていくことも実感できたと思う。

6月6日【山に登りたい!】

<遊びの様子>

*山を高くするためにスコップで砂を山にかける子どもと水をかける子どもに分かれて山作りに取り組んでいる。だんだん山が高くなってくと山に登りたくなる。

C児：「山に登ってもいい?」

E児「登ったら山が崩れるよ。どうする?」

「山に登った人は、足跡や崩れたところを直すことにしよう」

*クラスの友達にE児が考えたことを伝える。

全員：「いいね。そうしよう」

*子どもたちは、山に登ったり、すべったりして楽しむことができた。やはり山はずいぶん崩れる。



D児「山を直すには泥だんごがいいんじゃない?」

*バケツに砂と水を入れて混ぜたものをだんごにすることをみんなに伝える。



*D児の考えを取り入れ、みんなで泥だんごを山にのせたりつけたりして直す。

<お話タイム>

「山に登って楽しかった」「滑り台みたいに滑って楽しかった」「山に泥だんごを投げて楽しかった」とそれぞれが楽しかったことを伝え合う。



6月17日【ウォータースライダーみたいにできないかな】

<遊びの様子>

*山の周りに作ったコースにどんどん水を流してためている。

D児：「ぼく、水汲み名人だからやってあげる」

B児：「バケツ一杯に水を入れて運ぶよ」

だんだん水がたまってくると水の中に入りたくなる。

全員：「水の中に入ってみよう」

*何度も水を汲んで流し、たまった水の中に入っている。するとC児、H児が水を流すタイミングに合わせて自分たちも水の中に入り、ウォータースライダーのように滑れるか試し始める。繰り返し試しているが、滑らない。でも、C児、H児の姿を見て、A児も仲間に入ってくる。そのうち、

H児：「本当のウォータースライダーみたいに滑りたい」

T：「どうすればできるかな。何かいい考えがあるといいね」

*なかなか思いつかず、お話タイムで友達に聞くことになる。

<お話タイム>

T：「今日、本当のウォータースライダーみたいに滑って遊びたかったけどできなくて。ウォータースライダーってどうやったら滑るかな?」

☆子どもたちの「山を高くしたい」という思いを受け止め、保育者も遊びの仲間に入り、子ども達と一緒に山作りに取り組み、共通のめあてがもてるようにする。

◆高くなった山に魅力を感じ、登りたくなかったが、登った後山はどうなっているのか先を見通して、対策を自分なりに考えたE児の言葉に山に対する思いを感じた。

◆山を滑ったり登ったりして遊んでいる子どもたちの姿から、「やってみよう」と思える環境を設定していくこと、思いを実現できるように支えていくことの大切さを感じた。

☆D児の考えをみんなに伝えて共感し、泥だんごで崩れた部分を直せるようにする。

☆D児に作り方を教えてもらうように声をかけ、自分たちで取り組めるように支える。

☆お話タイムでは、それぞれの思いを聞くことで、友達の思いに触れる場になるようにする。

◆固い山ができ、クラス全員で登ることができ、子どもたちは、喜んでいました。それと共に、「クラス全員の山」という意識がより深まったように思う。

☆遊びに必要な道具、用具などを子どもの思いを聞きながら用意する。

☆友達と力を合わせて遊んでいる姿を認め、友達のよさを感じられるような言葉かけをする。

☆ウォータースライダーのコースに水をためるだけではなく、自分たちで遊び方を工夫して楽しんでいる姿を見守る。

◆遊びの様子を見ていると、自分たちで考えた遊びを楽しんでいることが表情から伝わってきた。その後さらに遊びを発展させようとする姿が見られるが、どうすればよいのか考えている様子が伺える。

☆H児、C児、A児の思いを実現するために、お話タイムで遊びについて取り上げ、友達の考えを聞く機会をもてるようにする。

☆いろいろなアイディアや考えが出るように声かけをする。

F児:「ウォータースライダーってめっちゃ坂にしたら滑るよ」

T:「なるほど。坂ってどうやって作る?」

全員:「山を使ったらいいんじゃない?」

A児:「山を崩さずに滑れるといいね」

F児:「樋を使うのは?」

T:「樋の上にはみんなが乗れないかな」

B児:「ダンボールは水に弱いから紙はだめだし。鉄ならいいんじゃない?」

T:「鉄ね。みんなはどう思う?」

*みんなで考えるが、なかなかいい考えが出ない。

T:「お家の人にも聞いてみる?明日また考えよう」

◆友達に思いを受け入れてもらったことを経験しているF児は、自信をもって自分の考えを伝えることができたように思う。

◆クラス全体で話し合いをしたことで、一人一人が友達の遊びのことについて、自分なりに考えを出し、友達に伝える姿が見られうれしく思った。そのことが友達への刺激となり、“やってみよう”と心を動かして遊ぶ姿につながっていくのではないかと考える。

◆子どもたちだけでは、なかなかいい考えが思いつかないが、お家の人からヒントをもらうことで、遊びが広がっていくのではないかと考える。

6月18日【みんなでウォータースライダーに挑戦!】

<活動前の意欲付け>

*お家の人に聞いてきた子どもはいなかったの、みんなで考えることになる。

F児:「黒板の絵カードを指さし「あんなのを敷くといいんじゃない?」

T:「なるほど。ラミネートのシートはね、機械に通さないといけなから今すぐできないかな。他に似たようなものが部屋の中にあるかな。よく見て」

E児:「あれは?」(黒板に貼ってある透明なシートを見つける)

T:「これ?」と子どもたちに見せる。全員:「それ!」

T:「どうやって使うの?」

全員:「セロテープでとめる。それがだめならガムテープ」

E児:「砂に埋めればいい」

T:「どうする?試してみる?」

全員:「やってみよう」

T:「今日は、何をすればいいの?」

全員:「最初に泥だんごで山を固める」

<遊びの様子>

*スコップで山をたたいたり、泥だんごを山にのせてからたたいたりするなどそれぞれが自分なりの方法で山を固めている。

T:「山は、どう?固まった?」

全員:「固まってきたよ。」

T:「シートをつけてみる?」

*子どもたちが山にできているコースにシートを敷き、テープでとめる。

全員:「だめだ。とまらない。」

次は、ガムテープ」

子どもたちが試してみる。

全員:「これもだめ」

E児が考えた砂に埋める方法を

試す。シートを敷くことができ、

実際に一人ずつ滑ってみる。

シートがはがれてぐちゃつとなり、

うまく滑ることができにくい。



☆家から聞いてきた子どもはいなかったの、また、みんなでどうすればよいかを話し合う機会をもつようにする。

☆自分なりに考えたことをクラス全体で受け止められるようにし、友達の考えに触れる機会になるように支えていく。

☆子どもたちが、透明なシートに気が付くことができるようにさりげなく、黒板に貼っておき、子どもたちが、自分達で見つけられるようにする。

◆いろいろなことを考え、それを試したいと思う子どもたちの気持ちを大切にしたい。

◆実際に試してみることで、次はどうすればよいかをみんなで考えるきっかけになり、遊びが深まっていくのではないかと考える。

◆必ず泥だんごで山を固めることから活動を始めることは、大切な山を崩したくないという子どもたちの強い思いがあるかと考える。

◆泥だんごの材料の水と砂の分量を子どもたちなりに考えたり、友達と力を合わせて作り上げたりするなど、試行錯誤しながら取り組んでいる姿から、“山を固くしたい”という思いが遊びの意欲になっている。

☆子どもたちが考えたことをすぐに試せるようにセロテープ、ガムテープ、透明のシートを用意しておく。

☆子どもたちが感じる疑問や困ったことなどを受け止め、どうすればよいかを見守りながら必要に応じて一緒に考えていけるようにする。

◆透明のシートがはがれてしまい、うまく滑ることができなかったが、ウォータースライダーのように滑ることができたことは、子どもたちにとって、楽しい共通体験になった。“もっとしたい”という気持ちにつながったように思う。

6月19日【いいこと考えた!レジャーシートを使ってみよう】

<活動前の意欲付け>

B児:「ママに聞いてきたよ。(滑る方法)」

T:「何だった?」

B児:「山をぎゅっぎゅっと固めることと、レジャーシートを敷くこと」

T:「これ?」とブルーシートを見せる。

E児:「ジャリジャリ(触ってみて)してるから滑らないかもしれないよ」

F児:「透明シートの上にレジャーシートをすればいいんじゃない?」

全員:「やってみよう」

ということで試すことになる。

<遊びの様子>

*いつものように山を固めるところから遊びが始まる。固まってきたところで、シート、レジャーシートを敷く。みんなで考えながら取り組む。

全員:「滑る人と水を流す人がいるよ」

それぞれ4人ずつ別れ、交替しながら滑る

B児:「たんぼぼさんとちゅうりっぷさんにも滑らせてあげたい」

*たんぼぼさん呼び、滑ってもらう。

<お話タイム>

「滑って楽しかった」「シャリシャリしてたけど滑ってよかった」と一人一人が思いを伝える。



☆昨日の遊びから、どうすればもっと滑ることができるのかをみんなで話し合えるように支え、B児がお家の人から聞いたことを友達に伝える機会をもつようにする。

☆B児、F児の考えを取り入れ、みんなで試せるようにする。

◆お家の人に滑る方法を聞いてきたB児に遊びへの意欲を感じうれしく思った。さらにB児の考えを友達に伝えることで、共通のめあてをもつことにつながり、クラス全員で楽しみたい。

☆レジャーシートを敷くときにどうすればうまく敷くことができるのか子どもたちに投げかけるようにする。

◆パタパタ動くレジャーシートをどうするのか聞くとC児が「砂で押える」と答えることができた。今までの経験が活かされている。

◆自分たちの楽しい遊びをたんぼぼさんにも経験してほしいという思いから、誘いかけることができた。異年齢のかかわりにつながった。

(B児の連絡帳より)

山を崩さずにすべりたい!という思いが熱いのかそのことばかり考えていました。

6月20日【もっとよく滑るウォータースライダーを作ろう】

<活動前の意欲付け>

B児が家からビニール風呂敷を持ってきていて、みんなに見せる。

全員:「(触ってみて) つるつるしてる。いいね」

試してみることが、共通のめあてになる。

<遊びの様子>

山を固める前

全員:「山が崩れてない固いね」と言いながら水汲み、泥だんごを作る、山を固めるなど自分たちで役割を分担して、遊び始める。

山にビニール風呂敷を敷く時、パタパタと動く。

T:「このパタパタ動くのどうする?」

C児:「砂をかけて押える」

みんなに伝えるとC児のように砂をかけている。

準備ができ、みんなで滑る。

(滑る人と水を流す人と別れ、交替しながら)

<お話タイム>

全員:「つるつるして滑りやすかった」

G児:「みんなと滑って楽しかった」

B児:「ビニールの風呂敷を持ってきてよかった」



◆どうすれば山を崩さずに滑れるのかを子どもたちなりに考え、共通のめあてにしてウォータースライダーの遊びを楽しんでいる。

遊びの様子をクラスだよりでドキュメンテーションにして保護者に配布する。

お山の滑り台成功してよかったです。レジャーシートの上にビニール風呂敷を置いたと聞いていたので、なるほど~!と思っていたところでした。みんなの意見を聞く、話し合う、そして実践!すごく素敵です。

泥んこ遊びがあんなに充実して楽しそうだとはびっくりでした。そもそも〇〇からは、泥んこは、山を作っていることと水をためて遊んでいることしか聞いていなかったの、まさかウォータースライダーをみんなで作っていたとは思いませんでした。みんな笑顔でとても楽しんでいる様子が伝わってきました。色々と試行錯誤を重ねているのが、さすがさくらさんですね。汚れなんか気にせず、じゃんじゃん遊んでほしいです。

連絡帳より

7月16日【違うコースも作ってみよう】

<遊びの様子>

まず、山を固め、その後コース作りをする。

全員：「コースを変えよう」

H児：「わたしがおしりで跡をつける」

*実際に滑って跡をつける。

H児：「狭いかな？」

C児：「いいんじゃない」

*今回は、一人用のコースになる。

A児、C児、H児でビニール風呂敷を敷き、みんなで試す。

*1回目・・・うまく滑らない。

T：「風呂敷がはがれるね。どうする？」

なかなかいい考えを思いつかない。

T：「風呂敷の重ね方はどうかな？」

全員：「変えてみる」

*2回目・・・滑ることができた子どももいる。

T：「滑れた友達もいたね。その時どんなふうになっていたかな？」

*水を先に流してから滑っていたことを思い出す。

全員：「水を先に流してから滑ろう。そうめん流しみたいだ。」

3回目・・・わりとよく滑る。

<お話タイム>

全員：「水を先に流すと滑ったね。」

「そうめん流しみたいで楽しかったね」

◆今までは、4人で滑っていたが、今回は、一人で滑るコースを考えていた。まず、H児が自分で滑って跡をつけることを考えたことは、今までの経験が学びとなり遊びにつながっていると感じた。

◆ビニール風呂敷を山に敷く時、砂で周りを押えていたが、壁を作るようにするなど今までとやり方を変え、工夫する姿が見られた。

☆子どもたちの様子に応じて、どうすればよいのか成功した時のことを思い出せるようにしたり、一緒に考えたり、ヒントを出したりする。

☆先に水を流す方法を取り入れたため、次の子どもが水を流すことをみんなに伝えるようにする。

◆新たな考えを出して作ったウォータースライダーをみんなで楽しむことができてよかった。

◆10日に経験したそうめん流しも遊びに活かされていたので、共通体験が共通のイメージにつながり、子どもたちには、大切なことだと改めて感じた。



【考察】

○4 歳児の時に作った山を大切に残してきた。子どもたちが思いを寄せているものを遊びに取り入れることで、遊びが広がったり深まったりするのではないかと考え、この活動に取り組んだ。子どもたちの興味、関心から、山の周りに「ウォータースライダーを作りたい」とコースを作り始めるところからこの活動がスタートし、“山の周りを一周できるウォータースライダーを作りたい”ことがクラス全体での共通のめあてになった。それに向かって必要な道具は何かを子どもたちと一緒に考えて用意したり、どうすれば一周つながるのかをみんなで話し合う場を設定し相談したりして子どもたちの思いを実現できるように支えてきたことが、達成感を味わうことにつながった。また、共通体験ができたことは、子どもたちにとって有効なことだった。そこから“山を崩さずに滑りたい”という新たなめあてをもつことになり、遊びが発展するきっかけとなった。

○日頃から、自分の思いを伝え合うことを大切にしている。活動の後のお話タイムだけではなく、“今、伝えたい”と思うことは、みんなで話し合いができるように場を設定してきた。F児の「どうせだめだもん」という思いをすぐに受け止め、みんなに伝えられるようにしたことは、安心して活動に取り組むことにつながった。困難なことがおきたときには、友達の考えに触れ、そこから新たな考えを思いつくこともあり、遊びを進めていくうえで大切なことだと改めて実感した。また、友達だけではなく、お家の人にもどうすればよいのかを聞いてくる子どもがいて、子どもたちをとりまく周りの助けも必要だと感じた。保護者の方には、子どもたちが経験していることからの学びをわかりやすいドキュメンテーションを活用したクラスだよりで情報発信を行った。保育実践を理解してもらえる機会となり有効だったと思う。

○活動を通して、子どもたちのやりたい・やってみたいという意欲や気持ちをまず、保育者が見逃さずに捉え、実現に向けて子どもたちと一緒に楽しみながら取り組むこと、また、すぐに答えを出すのではなく、子どもたちの思いや考えを中心に進めていくこと、見守ることの大切さを感じた。その過程で、いろいろな思いを経験しながら子どもの思いが少しずつ叶っていくことが満足感、充実感につながるのだとわかった。一人の考えでは実現できないことも友達と考えを伝え合って一緒に取り組んでいくことが、友達のよさに触れることになり、仲間意識がさらに深まっていくと感じている。